

国の重要文化財・岩手銀行旧本店本館が、「赤レンガ館」として生まれ変わります



正面から見た岩手銀行赤レンガ館

通称「赤レンガ」として地域の皆様をはじめ県内外の多くの方々から親しまれてきた国の重要文化財指定の岩手銀行旧本店本館の建物が、3年におよぶ保存修理工事を経て、この7月17日(日)に「岩手銀行赤レンガ館」としてリニューアルオープンします。

今月号ではオープンに先立ち、施設の歴史や館内の様子などについてご案内するとともに、新生赤レンガに期待する地域の方々の声をお届けします。

「赤レンガ館」の歴史

盛岡銀行時代

当時の盛岡財界人の集まりである交話会(のちに盛岡商工会議所発足により解散)を母体に明治29年に設立された盛岡銀行は、第九十国立銀行の1室を間借りし営業を開始します。翌年の増資に成功すると現在地に敷地を購入し移

転、その後の業績の進展もあり、明治41年に赤レンガ造りの本店新築に着工、3年の年月を経て明治44年に竣工しました。

設計は、東京駅や日本銀行本店など、日本を代表する建物を多数設計した辰野金吾と、盛岡出身で盛岡貯蓄銀行(現盛岡信用金庫本店)や岩手病院(現岩手医大附属病院1号館)の設計など、盛岡に近代的景観をもたらしたといわれる葛西萬司によるもので、辰野は同じ年に東京駅も着工しており、こちらは3年後の大正3年に竣工しています。

岩手殖産銀行時代

盛岡銀行はその後、昭和初期の金融恐慌により他の多くの銀行と同様に経営危機に陥り休業・清算することとなりました。

そして、疲弊した岩手県経済の立て直しに向け当時の大蔵省と県が主導し新たに岩手殖産銀行が昭和7年に設立され、昭和11年に本店が



1階多目的ホール（大）



2階階段の欄干

「赤レンガ」に移転しました。当時は赤レンガが赤字経営を連想させるとして、外壁を白く塗りつぶしましたが、現在も岩手銀行中ノ橋支店側の壁面にその名残りを見ることができません。

岩手銀行時代

岩手殖産銀行はその後、昭和35年に行名を岩手銀行と改称、地域経済とともに発展し、昭和58年の現在の本店社屋新築による移転後は中ノ橋支店として営業を続け、平成6年の国の重要文化財指定をはさみ平成24年の同支店新築までの101年間、銀行の窓口としての役割を果たしました。

館内のみどころ

館内は、地方銀行の果たしてきた役割や近代化遺産としての銀行建築を紹介する「盛岡銀行ゾーン」（有料）と、地域や県内の産業・文化・経済活性化の拠点としての役割を果たすことを目的としたスペース「岩手銀行ゾーン」（無料）に分かれて公開の予定です。

《1階》

「盛岡銀行ゾーン」に入ると、すぐ右手の旧第2応接室では、設計者の辰野金吾と葛西萬司のプロフィールと2人が設計を手掛けた代表建築物を紹介するパネルを展示しています。隣の旧重役室では、赤レンガ館の建設中や竣工時の光景、落成式や開業時の建物内部、営業室などの様子をはじめとした建物の変遷について紹介しています。また、開業当時から利用されてきた金庫室の内部も見ることができます。

「岩手銀行ゾーン」では、旧営業室が多目的ホール（大）となっており、イベント開催や様々な地域交流活動などに利用できるほか、中ノ橋支店時代に

地域の皆様に親しまれ利用された「赤レンガギャラリー」のスペースは、ライブラリー・ラウンジとして盛岡の産業・商業の歴史と周辺の観光案内ガイドランスを見ることができるモニターなどが置かれ、休息できるスペースとなっています。

《2階》

1階の多目的ホールは吹き抜けとなっており、回廊をめぐらしている2階の「盛岡銀行ゾーン」では、旧第1応接室と旧支店長室を使い、「岩手の金融史」として、銀行設立以前の江戸時代の県内の経済状況からはじまり、明治・大正・昭和にかけての岩手の産業・経済の様子と県内の銀行の変遷、そして東日本大震災における岩手銀行の果たした役割までの歴史を、パネルを中心に紹介しています。また、隣のシアタースペースでは、赤レンガ館の歴史と魅力をバーチャル映像で楽しむことができます。

回廊の中津川側にある旧会議室は「岩手銀行ゾーン」となっており、多目的ホール（小）として、ギャラリーや会議室などとして利用できます。

赤レンガ館のご利用や施設のご案内の詳細については、岩手銀行赤レンガ館のホームページ (<http://www.iwagin-akarengakan.jp>) をご覧ください。(岩手銀行総合企画部長代理兼広報CSR室長 勝部隆太郎)

地域のシンボルとして、賑わいの中心として 「赤レンガ館」に期待する

赤レンガ館の開館にあたり、岩手大学准

教授で都市計画・建築計画をご専門に、岩手県や盛岡市のまちづくりアドバイザーなどを務め、景観・まちづくり支援に取り組んでおられる三宅諭さん、近所の紺屋町で雑貨店「ござ九」を経営し、紺屋町かいわい街並み協議会の会長を務める森理彦さん、盛岡市肴町商店街振興組合の副理事長で「プレタわかまつ」を経営する若松裕幸さんに、開館前の赤レンガ館にお集まりいただき、「赤レンガ館」への期待や具体的な活用方法などについてお話いただきました。

——はじめに、みなさんの「赤レンガ」の思い出についてお聞きます。

森 銀行の中ノ橋支店時代は、入金や払出、振込など日常的に使っていましたので、とても

親しみがあります。

当時から観光客の方々も多く見えていたが、行員の方が業務の傍ら手際よく店内をご案内されていて、私の店にも観光客の方が訪れてきますので参考になりました。

若松 私も商売をしております取引銀行ですので窓口に行ったり、行員の方にいろんな相談をしたりと日常的に利用しておりました。

県外の取引先が商談で盛岡に来ると、「あそこは何なの？銀行の看板があるけど」とよく聞かれ、「建てたのは東京駅と同じ設計者で、今も銀行として営業してるんですよ」と言うと、みなさん驚かれ、興味を示していかれます。地域のランドマークという感じで、私としても当時から自慢のひとつでしたね。

三宅 私は2002年に盛岡に来ましたが、近くに引越してきてからは、窓口で振込をお願いに行ったり、あとはATMコーナーをよく



左から若松裕幸さん、三宅諭さん、森理彦さん

利用していました。

盛岡に来る前から建物のことは知っていましたが、実際に中に入ると営業室が吹き抜けになっていて、「いい使い方をしているなあ」と感じていました。

業務のIT化やスペース的な問題もあり、快適な業務環境を求めてオフィスがどんどん新しくなっていくなかで、重要文化財指定以降も古い建物をそのまま銀行として使うというのはほ



2階回廊からの鼎談の様子

んとうに珍しかったです。

——銀行としての役目を終え、リニューアルする赤レンガ館の皆さんの新しいイメージはどのようなものでしょうか。

森 私は、先ほどもお話ししましたように、以前は毎日のように訪問し利用しておりましたので、新しくなっても昔の雰囲気で地元の人が訪れて利用できるような機会が多くあればいいと思います。

今こうして館内を見渡しても、すごくいい雰囲気ですよ。いろんな人に入ってもらっていろんなイメージを持ってもらって、初めての人

にもお気に入りのスポットになってもらえばいいなと思います。なると思いますけど（笑）。

三宅 銀行が所有し管理する建物ですが、できるだけ市民が勝手に使うというか、多くの市民の方々が日常生活の場として利用できればいいですね。

昨年アメリカの大学にしばらく滞在したのですが、その大学の敷地内には赤レンガ館のような近代建築のホテルがキャンパスのメインのような存在で建っていて、学生がみんな集まってコーヒーを飲みながら勉強していました。つまり、ホテルと大学の間境界線がないのです。

防犯など色々な問題はありますが、どのくらい境界線を曖昧にできるかという視点も大事だと思います。

若松 公設ではなく銀行の運営ですから、民間の施設として、いろんな色を出せばいいと思います。我々も銀行さんも商人ですから、商人らしく何か利益を生む事業を行ってもいいと思います。

——魅力ある街づくりや、街の賑わいの創出にもつながるのではないかと思います。

若松 私の店や商店街に来るお客さんからは、「赤レンガ、何になるの？」とよく聞かれます。逆に「何がいい？」と尋ねると、みんなが集まるラウンジやカフェとか、仲間でコンサートや展示会、発表会の開催などいろいろ出てきますが、「何かみんなで楽しみたい」という意見が多いですね。

この周辺は、赤レンガ館のほかにもお城や中津川、ござ九さん、番屋、八幡宮、取壊し予定ですがバスセンターなど、豊かな自然を残しながら盛岡の歴史がまとまって存在していますから、赤レンガを中心としたこのエリアでの賑わいの発信の場所として利用したいですね。

森 先日、この周辺と肴町、八幡町、鉾屋町界隈まで、バスも利用しながら河南地域一体での街歩きを、いろんな方々の協力をいただきながら企画し実施しましたが、参加した皆さんからは喜ばれ、お陰様で好評でした。

赤レンガ館は交差点に面していて周辺の中心的な位置にありますので、立地を活かして何か地域や商店街とコラボレーションするなか

で、起点となって賑わいを創り出したんですね。最近はこの周辺でもいろんな人が動き出してきているので、エリア内で連携しているいろと考えていきたいと思っています。

三宅 まちづくりは、無理をして人を集めて行うのではなく、やりたい人がそれぞれに動いて楽しむのが基本。そんな芽が出てきているのは楽しみです、ひとつひとつの動きが繋がって行くと思面白いですね。きつとそうなっていくと思います。地元の人が楽しければ、観光などよそから来た人も記憶に残る楽しい思い出になると思いますね。

商店街との連携で言えば、商店街で何か買つたならば、赤レンガ館で何かありますよ、優待しますよ、といったことも考えてもいいと思います。

若松 先日、近くの久昌寺で仏前結婚式を挙げたカップルが肴町商店街のアーケードを通過披露宴会場の岩手県公会堂まで続く、お披露目の花嫁道中がありました。赤レンガ館でも何かできればいいと思います。たとえば館内のこのホールやバラ園で赤レンガをバックにして記念の写真撮影もできればいいですね。

三宅 建築を学ぶ者にとって盛岡はいろんな

有名な建物があつて魅力的です。昔から気になつていました。盛岡に赴任が決まったときは喜びました(笑)。

盛岡駅方面には新しい建物がどんどん出来ていますが、それはそれで、こちらの河南方面の

歴史を感じる空間と対比してメリハリがあつていいと思いますし、ここから中津川べりをゆくり歩き北上川の合流地点から盛岡駅に向けて歩くのもすごく気持ちがいいですね。

——では最後に、赤レンガ館の今後に期待する一言をお願いします。

三宅 大学の卒論の研究発表ですとか、岩手や盛岡に関する研究発表、あるいは銀行に関連した特定のテーマの研究の成果発表などでもいい



1階正面エントランスにて

と思いますし、高校生の発表の場であつてもいいと思います。

若松 近隣商店街の者として、せっかくの重要文化財ですし、観光客に向けた資料展示だけでなく、市民の財産として市民が日常的に使える、足を運ぶことのできる、集える場であつてほしい。「いつも何かやつてる」、そんな感じでみんなを利用して賑わってほしいですね。

森 県の公会堂は建物や内部の雰囲気を大事に

盛岡市中心市街地活性化への期待

盛岡市商工観光部部长 志賀達哉さんにお聞きしました



盛岡市は、中心市街地の活性化を推進するため、「賑わいあふれる中心市街地」と「訪れなくなる中心市街地」を目標に掲げ、平成25年12月から30年3月までを計画期間とした第2期中心市街地活性化基本計画を策定し、目標達成のために設定した60事業を民間事業者の皆さんと連携を図りながら実施しています。

計画の策定から約2年半が経過し、進捗状況に差はあるものの概ね計画どおり進んでいるところであり、平成27年度は、中心市街地の居住施設の整備事業による居住人口の増加や、新地域カードシステム事業の実施等による中心市街地の回遊性の向上などが図られたと考えております。今後は、効果の発現に至っていない事業を着実に進め、引き続き中心市街地の活性化を推進していきます。

「岩手銀行赤レンガ館」は、計画の主要事業の一つに位置付けられており、リニューアルオープンにより、周辺の歴史的施設等と連携した観光の大きな目玉として、観光客を含めた多くの入館者が見込まれるほか、市民の皆さんが気軽に立ち寄れるスペースやイベント開催などに活用できるスペースが設けられておりますので、賑わい創出の拠点として周辺エリアへの回遊性の向上が図られるものと考えております。

また、施設周辺の商業団体の皆さんを構成員に加え、周辺地域の活性化を検討する「赤レンガ周辺地域活性化委員会」が組織されましたことから、赤レンガ館の活用をきっかけに賑わい創出の取り組みがますます活発になり、中心市街地の活性化が推進されることを期待しております。

するような意識を持って地域の方々が利用されています。赤レンガ館も、人が多く行き交う場所ですので、そのような形で地域の方々がどんどん使って住民の生活の場となれば良いと、地元住民として期待しております。

——ありがとうございます。



中津川から見る赤レンガ館